

# 「きびしかった氷壁？」

令和5年2月5日(日)

氷壁登りに意欲をもっているリーダーのAさん、道岳連の氷壁訓練「銀河の滝」で研修を受け準備万端。

見学でも良いの案内なのに参加者14人「淋しい」

1級国道の雪道、ツボ足「スノーシュー無用」

4人早め出発でトップロープのセッティング、残りは9時出発  
氷壁登り開始、アイスパイル、モノポイントアイゼン、アイスクリュウ等の専門用語を使いながら、あーだ、こーだ！  
訓練よりも氷壁遊び、雪遊び。

女性陣3人N・Sさん、T・Sさん、N・Uさん自信無さそうなのに、登り始めると一遍し、男ども「あぜーん」とする。



下では、Oさん、Yさんが「おしるこ」を作ってくれて、冷えた体が温まり「たすかった♥」

来年は一緒に登りましょう、変わりに私とWさんが温かいものを用意します。

氷壁訓練後Uさんから「登っている時いろいろ声がかかり、何をして良いかわからない」の一言  
指導員・・・無言、Wさん「わたしが全て悪いのです」みんな納得のうなずき、でも声をかけたのは、Wさんだけでない「反省」

帰りは、山北沢左股滝をラッセルで苦労しながら見学に、途中止めようとするが「最初の一滴舐めるところまで行くよう」『激』

その後瓦斯山の下にある北俣の滝を見る、みんな「よかった！」

指導委員会事業の一つ「氷壁訓練」リーダーの苦労も大変ですが、みんな協力しますので来年も継続しましょう。